

実現へ!

「少人数学級」「乳幼児医療費無料化年齢引き上げ」

13日の大垣市議会一般質問で小川市長は、乳幼児医療費の外来通院について小学校2年生まで無料にすることを表明しました。また入院費についても年齢引き上げを検討すると答えました。8日の県議会で鬼頭教育長は「小学校の低学年、特に1年生については、少人数学級の導入について検討を進めていく」と答弁しました。

笹田トヨ子議員の一般質問への答弁報告

1. 合併について

30万人中核都市の1市9町の大規模合併は破綻しましたが、積極的に進めてきた「小川大垣市長の責任」と「合併協の解散」及び「飛び地になる上石津町と墨俣町の合併」について質問。

小川市長は「54の協定項目の協議を終了したことは議長としての責任の一端を果たした」と答え、合併協の廃止は、「今後1市2町の合併研究で検討していく」とし、墨俣・上石津町の飛び地合併については「2町とはこれまでも協力してやってきた」と協議を続ける意思を明らかにしました。

2. 台風23号について

台風23号では大谷川洗堰から越流したがそのメカニズムについては、「垂井・赤坂の豪雨により相川・大谷川・泥川の水位が上昇し越流したと考えている。」と答弁。

仮土壌積みの功罪について、「水防土壌積みが水路流下を妨げたわけではなく、豪雨により水路の流下能力が超えた水量であったため」

岐阜県が洗堰周辺を「輪中堤」で築堤する試算資料に

ついてなぜ公表しなかったのかと尋ねると、「いくつかの案があることは承知していたが、平成14年の11月に平成19年度洗堰嵩上げ案が地元住民に説明され、合意を得て現在工事を行っている」と答弁。再質問で、今回の23号台風でも明らかかなように、この大垣地域には揖斐川に流下するまでに一時的にでも水を溜めておく遊水地が必要ではないか、県の輪中堤築堤の遊水地案を大垣市民全体に公表して市民的な議論をするべきではないかとせまった。この問いに対して直接答えず「現在1期工事が進行中で、その後住民の同意を得て締め切るための2期工事に入る」との答えにとどまりました。



笹田トヨ子議員2つの公約が実現へ

笹田トヨ子議員は公約で「30人以下学級と乳幼児医療費無料化年齢引き上げ」を公約に掲げ、この2年間、一般質問など機会ある毎に取り上げてきました。今年9月議会でも来年度予算編成に向けて「少人数学級」と「乳幼児医療費の年齢引き上げ」について一般質問で取り上げました。その時の答弁は、「少人数学級」については「県に要望する」というものでしたが、「乳幼児の医療費無料化」については「予算が無いので無理である」との態度でした。

しかし、この12月議会の一般質問で、小川市長はついに「乳幼児の医療費助成制度の拡大」を打ち出しました。

急がれる水害対策なのに議場に反対の声

県の輪中堤築堤の試算資料について質問している時、議場から「反対」という野次が飛び騒然としました。大垣地域の水害をなくすために全市民的に検討することを求めたのに、なぜ反対するのでしょうか。荒崎の水害は荒崎地域だけの問題ではなく、揖斐川の支流にある牧田川・杭瀬川・相川・大谷川などの流域住民全体の問題です。国は河川法の改正で、ダム頼りの治水対策から総合治水の考え方に方向転換してきています。ですから、遊水地をできるだけ確保するという考え方に変わってきています。この考え方に沿って、県の輪中堤築堤案が作成されたと思います。費用は50億円から70億円ほどです。3500億円の徳山ダム建設費と比べてみれば、不可能な金額ではありません。

「反対」と野次を飛ばした議員は、なぜ市民に公表し、市民全体で検討することに反対するのでしょうか？

市会議員・笹田トヨ子

やったあ!

少人数学級実現の推進役
子どもサポートネット代表
田中美帆さん

少人数学級の動きについて、早速、県教委に電話をして確かめた子どもサポートネットの田中さんは「ようやく子どもの教育条件が整うわけだけど、これからが大事。少人数学級になって、ますます管理が強まったでは困るわけで、本当に子どもにとって学校が楽しく、生き生きとした学校生活が送れるよう、教育の自身についてもどうして欲しいかしっかりと声を挙げていくことが大切」と語っていました。

ご意見・ご質問等はこちらへ TEL 81-1383

<http://www.sasada-toyoko.jp/>

e-mail: sanbal@sasada-toyoko.jp

